

児童詩（2年） かんじたことを

指導目標

生活の中で感じたことや見つけたことを詩に書く。

教材について

詩と出会う初めての教材である。この時期の子供たちは、動物や植物、友達や家族、先生とのかわりの中で感じたことを、素直な言葉でつぶやいたり、語りかけたりしてくる。その言葉には無意識ではあるものの、感じたことにぴったりの比喩や擬人法が使われていたり、発見の中に詩の心を感じたりすることも多い。しかしながら、作文や日記ではうまく表現できないでいる心の動きや発見もある。本教材では、詩だからこそ表現できる一瞬の感動や心の動きに気づかせ、友達と作品を読み合ったりする中で、作文とは違った書く楽しさ、思いを表現できる喜びを味わわせたい。

参観日のどきどきした気持ちを書き表した「むねのたいこ」、妹のかわいらしい動作を発見した「妹」、どちらも日常の生活の中から見つけた題材である。二つの詩を読んで、普段の生活の中で心が動かされたことや発見したことから題材を見つけられることや、一瞬のできごと事が詩の題材になることにも気づかせたい。さらに、心が動かされた体験をたくさん発表させて、自分の詩を書く題材探しへとつなげていきたい。

「むねのたいこ」は題の付け方に工夫があり、「むねが たいこのように ドンドン なった」と響き合っている。参観日の緊張した気持ちと比喩のおもしろさがぴったり合っている作品である。ここでは、心を動かされたことを自分らしい言葉で書いたり感動の中心を題名に使ったりすることを学ばせたい。「妹」は、したまま、見たまま、感じたままを短い言葉で素直に書き表している。妹の動作を見て「ひらおよぎするみたい」と感じたことを自分らしい言葉で書き表したことと「じぶんで 立てるのが うれしいみたい」とが響き合っている。詩では、感じたことを自分らしい言葉を探して書き表す工夫が必要となる。二つの作品を読むことで、気持ちにぴったりした言葉で表現することもめあての一つとしてもたせたい。

「B書くこと」の目標と内容

目 標

(1) 経験したことや想像したことなどについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。

内 容

(1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 相手や目的を考えながら、書くこと。

イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

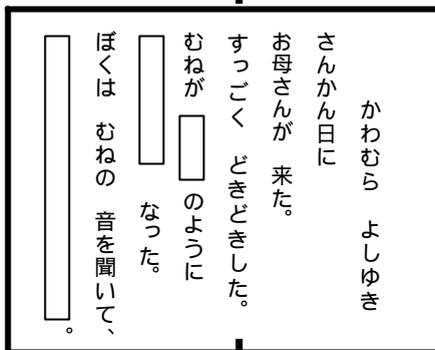
ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。

エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。

オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。

学習指導計画（全7時間）

展開・時	学習活動と教師のはたらきかけ	留意点・評価
第一次 1時	<p>「むねのたいこ」の詩を読んで、作者が心を動かされた時や、詩の書き表し方の特徴について話し合う。</p> <p>1. 「むねのたいこ」を教師と一緒に、3行めまで一文ずつ視写する。</p> <p>2. 本文4・5行めでストップ。比喻「たいこ」擬態語「ドンドン」をかくす。の中にどんな言葉が入るか話し合った後、視写。</p> <p>3. 本文6行目視写。</p> <p>4. 7行めをかくす。どんな言葉が入るか想像して話し合った後、7行目を視写。題を知る。</p> <p>5. おもしろいな、気持ちがわかるな、ときどきした心にぴったりの言葉だなというところを発表し合う。</p> <p>6. 自分の詩を書く参考にするため、学校文集や詩集を読んでいくことを知る。</p>	<p>・題は伏せておく。</p> <p>・短い文、改行、文頭が揃っていないことなどに気づかせるため、一文ずつ視写させていく。</p> <p>言：句読点の打ち方や改行、「」に注意して視写している。</p> <p>・前半の三文とかかわらせながらも、自由に想像させ、表現を認める。</p> <p>・発表の中でどんな時、心が動かされた詩なのか確かめさせる。</p> <p>関：題名や表現のおもしろさ、よさを発表しようとしている。（発言）</p> <p>・読書の時間や、朝自習などの時間で詩に親しませる。</p>
2時	<p>「妹」を読んで、作者が心を動かされた時や、詩の書き表し方の特徴について話し合う。</p>	<p>・「ひらおよぎ」をマスキング。</p> <p>関：表現のよさを発表しようとしている。（発言・ノート）</p>
第二次 3時 (本時)	<p>「詩を書こう」「かんじたことを」を読んでめあてをつかみ、学校や家でのできごとの中で心に強く残ったことやおもしろいと感じたことから詩の題材を選び、ぴったりの言葉をワークシートに書く。</p>	<p>関：経験を発表しようとしている。（発言）</p> <p>書：題材に必要な事柄をメモしている。いちばん心が動いたことを選んでいく。（ワークシート）</p>
4時	<p>気持ちや様子がわかるように、表現を工夫しながら詩を書く。</p>	<p>書：生活の中からときどきしたり心が動いたりしたことを、自分の言葉で書いている。</p>
5時	<p>読み返して、さらに表現を工夫したり、句読点や「」文頭揃えに気をつけて書き加えたりする。</p>	<p>書：自分の詩を読み返し、よりよい表現になるよう注意して書き直している。（作品）</p>
第三次 6時	<p>書いた詩を読み合っ、感想や上手だと思ったところを手紙に書いて知らせ合う。</p>	<p>・詩を書く意欲へつなげる。</p> <p>関：友達の作品のよさについて書こうとしている。（手紙）</p>
7時	<p>清書して挿絵を描き、作品集を作る。</p>	<p>言：自分の詩を読み返し、句読点や「」、文頭揃えに注意して書き直している。（作品）</p>



本時の展開（本時 3 / 7）

目標

- ・学校や家でのできごとの中で心に強く残ったことやおもしろいと感じたことから詩の題材を選び、ぴったりの言葉とともにワークシートに書くことができる。

展開例

学習活動・学習内容	留意点	評価・支援
<p>1. 「むねのたいこ」「妹」を音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>しのたね（＝しに書きたいこと）をさがしましょう。</p> </div> <p>2. 伝えたかった気持ちと場面を確認する。 「むねのたいこ」＝ドキドキしたよ。 参観日でお母さんが来た時。 「妹」＝妹の動きがおもしろかったよ。 妹を高い高いした時。</p>	<p>前時までの確認。</p>	
<p>3. 同じように「ドキドキした」時はないか、その時どう思ったか自分の経験を発表する。 <例> ・全校表彰式で賞状をもらう時、ドキドキした。みんなの顔が全然見えなかったよ。 ・手紙をもらって開く時、なんて書いているかドキドキしたよ。うれしかったよ。</p> <p>4. 「おもしろいな」と思った時がないか、その時どう思ったか経験を発表する。 <例> ・給食の時、男子がおもしろいことを言ったよ。みんな大笑いして笑顔になったよ。 ・弟がまねした時、おもしろいよ。何でもまねするけれど、勉強のまねだけはしないだよ。</p> <p>5. 「ドキドキした」「おもしろい」のほかに、心で感じる気持ちを発表する。 ・「かんじたこと」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ドキドキ ・おもしろい ・びっくりした ・ふしぎだよ ・くやしい ・うれしい ...</p> </div> <p>6. P59を読み、河村さんや松岡さんの気持ちにぴったりした言葉が何か確かめる。 ・緊張した＝「たいこのように ドンドン」 ・おもしろい＝「ひらおよぎするみたいに」</p>	<p>「～した時」と発表させることで、感動の中心場面を切り取らせる。 いろいろなどきどきがあること、このように短い時の心の動きが詩の題材になることを知らせる。 視点の違う「おもしろい」に気づくよう、比較して考えさせ、題材を広げる手だてとしたい。 強く心に感じた短い時が詩の題材になることを知らせる。</p>	<p>発表に応じて、見たこと、聞こえたこと、匂い、手触り、思ったことなど付け足して発表するよう助言する。</p> <p>自分の経験に基づいて考えるよう助言する。</p> <p>関：経験を発表しようとしている。 （発表・観察）</p>

<p>7. ワークシートに、詩の題材をできるだけ多くメモする。</p> <p>「ドキドキした」、「くやしかった」など題材を選ぶ観点を子供に書かせるよう、空欄を作ってもよい。</p>	<p>・書けない場合は、多くなくてもよい。</p>	<p>書：詩の題材をメモしている。</p> <p>(ワークシート) 日記の中から探すよう助言したり、生活の中から教師と一緒に題材を選んだり</p>
--	---------------------------	---

かんじたことを
なまえ

しにかく たねを さがしましょう。

みじかい 時に
こころが つよく
うごいた ことを

おもしろかったよ

ふしぎだったよ

かなしかったよ

びっくりしたよ

かきたい ことを 一つ
えらびましょう。

気もちに ぴったりあった
ことばを さがしましょう。

気もちに
ぴったり あった ことば

<p><ワークシートの例></p> <p>8. メモの中からいちばん書きたいことに赤丸をつけて詩に書く題材を決め、気持ちにぴったりの言葉をワークシートに書く。</p> <p>9. 本時のまとめと次時の予告。</p>	<p>めあてにそって詩を書くことを確かめる。</p>	<p>する。</p> <p>書：いちばん心が動いたことを選び、ぴったりの言葉で書いている。</p> <p>(ワークシート) 五感をはたらかせ、内容に応じて詳しく思い出すよう助言する。</p>
---	----------------------------	---

かんじたことを

なまえ

詩^しに かく たねを さがしましょう。

びっくりしたよ

みじかい 時に
ころが つよく
ういた ことを

ふしぎだったよ

かなしかったよ

おもしろかったよ

かきたい ことを 一つ
えらびましょう。
気持ちに ぴったりあった
ことばを さがしましょう。

どきどきしたよ

☆気持ちに

ぴったり あった ことば